はまなす句会（五月十六日）（百三十三回）

紫の風をひろげて桐の花　　圭二

秘めごとの色とも見せて桐の花　　菊枝

花桐のこぼるる家の主亡く　　由美子

人住まぬ屋敷守りぬ桐の花　　久子

聞くほどに見たくなりけり桐の花　　玲子

おぼろげに父の記憶や桐の花　　則子